



《ニュース資料》

2010年3月

「日本列島 知恵プロジェクト」特別プログラム

第1回「現代に伝わる暮らしの知恵」公募キャンペーン

公募期間は2010年3月1日～8月31日

日本ロレックスでは、昨年スタートした環境プロジェクト「日本列島 知恵プロジェクト」の活動の一環で、2010年3月より「『現代に伝わる暮らしの知恵』公募キャンペーン」を実施しています。古来、日本列島で受け継がれ、現在も日々の暮らしに役立っている様々な知恵を再発見するキャンペーンです。

日本ロレックスは、昨年、「日本列島 知恵プロジェクト」と題した環境プロジェクトをスタートしました。このプロジェクトは、日本列島に古くから伝わる自然と共生する知恵と、そうした知恵が受け継がれる地域の生活文化を取材していくもので、水中写真家の中村征夫さんを中心に、作家の吉村喜彦さん、女優の鶴田真由さんらの協力を得てすすめています。（※詳細はウェブサイトをご覧ください。www.chie-project.jp）

そして今回、広く一般の皆様にも、このプロジェクトにご参加いただきたいの思いから、「『現代に伝わる暮らしの知恵』公募キャンペーン」を企画、2010年3月1日から8月31日までを第1回公募期間とし、キャンペーンを実施することになりました。

ご応募いただくのは、古来、日本列島の自然環境や気候風土の中で生まれ、今日も暮らしの中で受け継がれている様々な知恵に関する情報です。祖父や祖母、両親から教わった衣食住に関する知恵、漁業や農業、林業に関する知恵、伝統工芸の技として受け継がれている知恵など、テーマや分野は問いません。

ご応募いただいた知恵の情報は、中村征夫さんから「日本列島 知恵プロジェクト」実行委員会のメンバーが、とりわけ印象に残った10の知恵を「未来に伝えたい10の知恵」として選出、ウェブサイト内で紹介させていただきます。それらの知恵に関する情報を提供してくださった方には、現金3万円の謝礼と中村征夫さんのサイン入り額装写真を差しあげます。また、漁業に関する興味深い知恵の情報については、その知恵の舞台を中村征夫さんが取材に行くことも考えています。

普段は意識せずに行っていることが、もしかすると後世に伝えるべき貴重な知恵かもしれません。まずは、「意識してみること」が大切だと考えています。意識することで、日本列島には世界に誇るべきたくさん知恵が眠っていることに気づかされるにちがひありません。皆様からの様々な情報をお待ちしています。



「日本列島 知恵プロジェクト」特別プログラム
第1回「現代に伝わる暮らしの知恵」公募キャンペーン

[実施概要]

● 公募内容

古来、日本列島の自然環境や気候風土の中で生まれ、今日も暮らしの中で受け継がれている様々な知恵に関する情報。

[例えばこんな知恵]

◎米のとぎ汁／子供の頃、年末の大掃除は一家みんなでやったものですが、柱と床磨きはおぼろ私の役目でした。そのとき米のとぎ汁を使って磨き、とてもぴかぴかになったことを覚えています。当時を思い出し、先日、マンションのフローリングでも試してみたら効果がありました。

◎いぶりがっこ／秋田県の出身の母のお陰で、私の家の食卓には秋田の郷土料理が並ぶことが多かったのですが、中でも一番好きなのが、大根を燻製にしてから漬ける「いぶりがっこ」です。子供の頃は何の疑問もなく食べていましたが、最近、なぜ燻製にしてあるんだろうと思い、田舎の祖母に訪ねました。大根は水分を抜いてから漬けるのですが、この地域は雪が多かったため、日光や風にあてることができず、囲炉裏の天井から吊るし、燻しながら水分を抜いていたんだそう。あのやみつきになる独特の味わいは、雪国に暮らす人々の知恵から生まれたんですね。

● 公募期間

2010年3月1日～8月31日

● 応募方法

「日本列島 知恵プロジェクト」ウェブサイト内の応募フォームにて応募。

www.chie-project.jp

● 授賞内容

・「未来に伝えたい10の知恵」賞

水中写真家の中村征夫さんを中心とする「日本列島 知恵プロジェクト」の実行委員会のメンバーが、とりわけ印象に残った10の知恵を「未来に伝えたい10の知恵」として選出。選出された知恵をご応募いただいた方には、現金3万円と中村さんのサイン入り額装写真を贈呈。

・特別賞

漁法に関する知恵の情報の中から、興味深い知恵を中村征夫さんが選出し、その知恵の舞台を中村さんが取材。取材させていただいた方(グループ)には取材謝礼金5万円と中村さんのサイン入り額装写真を贈呈。

● 発表

2010年10月上旬。「日本列島 知恵プロジェクト」ウェブサイト内で発表。

● お問い合わせ

「日本列島 知恵プロジェクト」実行委員会

info@chie-project.jp

※詳しくは「日本列島 知恵プロジェクト」ウェブサイト内の公募キャンペーンのページをご覧ください。

「日本列島 知恵プロジェクト」とは

日本列島は、自然環境と上手に永くつきあっていくための伝統的な知恵の宝庫であると言われています。

「日本列島 知恵プロジェクト」は、そんな知恵を地道に取材、発信していこうとするプロジェクトです。水中写真家の中村征夫さんを中心に、日本ロレックスのゆかりの仲間たちが思いを一つにして、今、日本列島に伝わる知恵を求める旅を続けています。

中村征夫さんはユニークな伝統漁法の知恵を取材、それぞれの地域の人々の営みにもふれながら、日本古来の豊かな生活文化を再確認しています。また、女優の鶴田真由さんもプロジェクトに特別参加し、彼女ならではの視点で知恵の里を訪ね、貴重な経験を重ねています。

そんな旅の様子を紹介していくオフィシャル・サイト(www.chie-project.jp)が昨年の7月20日・海の日にスタートしました。日本ロレックスでは、中村征夫さんの美しい写真と映像をきっかけに、多くの人々が日本の海や山や様々な生命の未来を想う仲間の輪に加わってくれたらと願っています。



中村征夫(水中写真家)

[今までにご紹介した伝統漁法] (2010年2月末現在)

漁法名(地域)		漁法
ギンバソウ箱めがね漁 (新潟県佐渡島)		水深3~5メートル前後の海域で、ホンダワラ科の海藻ギバやナガモ、天然ワカメなどを漁師が箱めがねで覗いて採取。
ハマグリ漁 (高知県甲浦)		春になると、地元のおじいさん、おばあさんが浅い浜で足を使いハマグリを探り当てる。誰でも簡単にたくさん採ることができる楽しい漁法。
もんこ籠漁 (福井県若狭)		籠の中に、麦の茎の部分で作った仕掛けを入れ、そこに産卵にくるコウイカを獲る漁。水深15~30メートル付近で行うが、深い方が大きいコウイカが獲れるという。

美しい日本の生活文化と
豊かな未来を求めて

日本列島 知恵プロジェクト

presented by  ROLEX

<p>待網漁 (鹿児島県奄美大島)</p>		<p>漁師を引退した老人クラブの面々で運営。浅い浜に小魚を求めて現れるカツオなどの回遊魚を、浜に網を張り辛抱強く待つ漁。木の上に見張りを置き、網の外に逃げる魚に上から石を投げつけ追い込む、独特な漁法。</p>
<p>イセエビ漁 (長崎県五島)</p>		<p>岩陰に隠れているイセエビに天敵のタコを近づけて、飛び出してきたところを網袋で獲る漁。</p>
<p>タコだまし漁 (秋田県男鹿)</p>		<p>棒の先にカラフルな布をつけ、それを疑似餌に見せかけて浅瀬の岩穴からタコをおびきだして獲る漁。最近はカニの形をした疑似餌も使う。</p>
<p>スンカリヤー漁 (沖縄県石垣島)</p>		<p>一人が舟上で舵をとり、もう一人が舟縁につかまって泳ぎながら獲物の行方を追い、追われるのに疲れ果てたところを銚で突くという、もともとは二人で行っていたウミガメを獲る漁法。現在は、これを一人で行い、コブシメやタコを獲る漁となっている。</p>
<p>ンゾー漁 (沖縄県竹富島)</p>		<p>カニを餌にンゾーと呼ばれる小さなタコを獲る漁。カニを葉で包んだものをタコの穴に仕掛ける「ンゾービドゥ漁」といわれる田植え方式と、縄にカニと貝殻を結わえ付けた仕掛けを干潟に投げ飛ばして行う「ンゾーブラー漁」といわれるカウボーイ方式がある。</p>

伝統漁法の映像や写真がご覧いただける取材記のほか、生命誌研究者の中村桂子さんや女優の鶴田真由さんらによる「エッセイ・ライブラリー」、「取材こぼれ話」など多彩なコンテンツをご用意しています。詳しくは、www.chie-project.jp を御覧ください。

[貴誌(紙)掲載の際のお問い合わせ先]

「日本列島 知恵プロジェクト」実行委員会 事務局

www.chie-project.jp E-mail. Info@chie-project.jp

[お問い合わせ]

日本ロレックス株式会社 宣伝広報課 三浦淳子 TEL.03-3216-5671 jmiura@rolex.co.jp

株式会社ニブリック 新飯田稔 恩蔵裕子 TEL.03-5824-4810 onzo@niblick-tokyo.co.jp